



コラム③

地域のソーシャルキャピタルを知る

第2部では、それぞれの区市町村レベルでのつながりの状態を把握することができます。これは学術用語で「ソーシャルキャピタル」と呼ばれます。ソーシャルキャピタルにはいくつかの種類があるといわれています。

その中の一つが、「結束型—橋渡し型」という分類です。結束型ソーシャルキャピタルは「同質性の高い者同士のつながり」、橋渡し型ソーシャルキャピタルは「異質性の高い者同士のつながり」を指します。

結束型ソーシャルキャピタルが高い地域は、地域内に同じような背景を持つ人同士のつながりが多い地域です。例えば高齢世代のつながり、子育て世代のつながりなど、同じような背景の者をつなぐつながりが強く、そこに住む人は安心感を得ることができるでしょう。

橋渡し型ソーシャルキャピタルが高い地域は、地域内外の異なる背景を持つ人同士のつながりが多い地域を指します。例えば、世代間の交流です。そうした地域に住む人は色々な刺激を得ることが多いと考えられます。

レーダーチャートの項目にある、「地域で違う世代の人と交流がある」者の割合が高い地域は、まさに橋渡し型ソーシャルキャピタルが高い地域であるといえます。しかし、世代（20～64歳／65歳以上）で値のギャップがある場合、真の意味で橋渡し型ソーシャルキャピタルが高いとはいえないかもしれません。

地域のソーシャルキャピタルが豊かな方が、そこに住む人の健康状態は良いことが知られています。しかし、人の健康は地域のソーシャルキャピタルの程度だけで規定されているわけではありません。レーダーチャートでは、区部では地域のつながりの得点は低いものの、健康状態の得点は高い、「上が尖った形」をしているところが多い印象です。地域のつながりはそこまで豊かではないけれど、地域を基盤にしないつながりや活動参加の機会が多く、それによってつながりの効果を享受できているのかもしれない。

この調査で把握できているソーシャルキャピタルは、ほんの一側面に過ぎません。それぞれの区市町村ごとに、どういうソーシャルキャピタルが豊かなのかを知り、それを維持することが重要です。